

歯科臨床研修医修了にあたって

「歯科臨床研修を終えて」

義歯(入れ歯)診療室 橋本 和彦



早いもので、もう本学の研修医生活も2年目が終わろうとしています。「研修医生活を終えて」の原稿を自分で書く時期が来ようとは…と時の早さを実感しています。

研修医1年目は、学生時代に臨床実習を行った総合診療室からのスタートで、僕としては3ヶ月前までいた同じ場所ということで、当初はあまり新鮮味がないなと思っていました。ところが、いざ患者さんを担当させて頂き、臨床実習が始まると色々迷うことが多く学生の時とは場所こそ同じでしたが、まったく異なる研修となりました。学生時代はライターの先生に逐一確認をしていたが、きながら臨床実習を進めていたため、問題もなく、すんなりきたように感じていて、多少のことなら自分でできると思い込んでいました。ところが、いざ自分で治療を行ってみると、いたるところ問題だらけで、どれが最良なものかというのがわからず苦労しました。しかし、そういう迷った時には4人の各科専門の先生方にいつでも相談することができました。そこが総合診療部で非常に良かったところだと思います。とかく物事を一方向だけが見がちですが、各分野それぞれの考え方アプローチの仕方がわかる良い機会となりました。また、毎週水曜日の午後4時から行われる研修医セミナーも色々な科の先生方や技工士の方々に講義をしていただき、貴重なお話を聞くことができました。

2年目は、いくつかの科を回り研修を行うローテーションという方式を選択することもできましたが、やはり1年間という期間は短く、「中途半端

に他科を回るよりは…」と義歯入れ歯診療室での1年間の研修を選択しました。学生時代・研修医1年目と義歯治療に携わることが少なく、正直なところ「入れ歯にさわるのが怖い」という気持ちがありました。また、学生時代から「義歯について学びたい」というのが希望にあつたため、義歯入れ歯診療室を研修の場として選びました。自分自身での診療、指導医の澤田先生、五十嵐先生の診療介助・技工物製作に従事し色々教えて頂いたり、午後10時からの数回にわたって開いて頂いた澤田先生による総義歯勉強会など色々な経験ができました。また、義歯入れ歯診療室の研修で一番心に残ったのは、「どんな簡単な症例でも、各ステップでエラーを改善せずにすすめ、それが蓄積されていくことでどんどん難症例になってしまう（自ら難症例にしてしまう）」という澤田先生の言葉でした。診査が甘かったり、治療の各手順でのエラーが僕自身まだまだ多いですが、この言葉を肝に銘じ、症例を自らの手で難症例にしないよう今後の治療に役立てていきたいと思えます。

最後になりましたが、河野教授、興地教授、総合診療部の指導医の先生方、澤田先生、五十嵐先生をはじめとする義歯入れ歯診療室の先生方、ご指導ありがとうございました。

臨床研修医終了にあたって

義歯(冠・ブリッジ)診療室 寺沢 彩



この3月で、2年間の研修医生活が終わろうとしています。ついこの間、大学を卒業したばかりの気がするのにも、毎日が充実してあつという間に過ぎてしまいました。

1年目の6月に、無事歯科医師免許というもの

をいただいてから、総合診療部で研修が始まりました。実際に患者さんを担当させていただいて、診査、診断から治療計画、治療へとすべて自分でやらなくてはいけないことに、改めて、歯科医師になったんだといううれしさと、「担当医」である責任の重さの両方を実感しました。しかしながら、判断のつかないことや、うまくできないことばかりで、そのたびに専任教官の先生方に指導していただき、なんとか乗り切ることができました。教官の先生も、保存の福島先生、石崎先生、補綴の加藤先生に、エンドの興地教授、ペリオの小林先生が加わり、各専門のスペシャリストの先生方が集結したとても恵まれた環境だったと思います。

2年目は、3ヶ月間口腔外科の外来を回らせてもらうことにし、残りは、自分の所属する科としました。口腔外科の3ヶ月は、おそろしく早く過ぎてしまいました。それまで、いまにも抜けそうな歯の抜歯くらいしかしたことがなく、歯肉の切開にもビビっていたくらいなので、埋伏歯の抜歯をさせてもらえ、外科処置に対して少しは恐怖心がなくなった気がします。また、外科ならではの

様々な疾患を見ることができ、少しはそういう目が養われた、かな?? と思っています。本当に貴重な経験でした。

今は2月ですが、補綴科で臨床を学ばせてもらっています。補綴の難しさ、奥深さ、そしておもしろさを感じつつも、実際は冷や汗をたらたら流しながら、毎日をしのいでいる感じです。わたしは、何か起こるとすぐカーツとなって頭が真っ白になってしまい、止まっているか、意味もなくあたふたしていることが多いのです。ただでさえ童顔で、先生としての威厳は明らかにないで、せめて態度は先生らしくしたいと思っています。患者さんに不安を与えないようにと、何かハプニングが起こっても(!?)「落ち着け、落ち着け」と自分に言い聞かせています。数々の失敗から学んだこともこれからの臨床に生かし、一日も早く一人前の先生になれるよう、勉強していきたいと思います。

最後に、総合診療部、口腔外科、補綴科の先生方、ご指導ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。

